

References

- GOKAN, N., & K. HOSOBUCHI, 1979. Fine structure of the compound eyes of longicorn beetles (Coleoptera: Cerambycidae). *Appl. Ent. Zool.*, **14**: 12-27.
- SCHMITT, M., U. MISCHKE & E. WACHMANN, 1982. Phylogenetic and functional implications of the rhabdom patterns in the eyes of Chrysomeloidea (Coleoptera). *Zool. Scr.*, **11**: 31-44.
- TOMINAGA, Y., & H. KABUTA, 1973. Fine structure of the compound eye of ladybug beetle *Harmonia axyrides*. *Fukuoka Univ. Sci. Rept.*, **2**: 87-99.

Elytra, Tokyo, **18** (2): 274, November 15, 1990

ハナバチヤドリキスイのカムフラージュ

西川正明

Masaaki NISHIKAWA: Cryptic Colour and Posture of
Antherophagus nigricornis (Cryptophagidae)

筆者は今年、北海道でハナバチヤドリキスイ *Antherophagus nigricornis* (FABRICIUS) を採集したが、その際、若干の知見を得たので報告する。データは次のとおり。

4♂♂ 4♀♀, 北海道渡島支庁七飯町鳴川林道, 29-VII-1990.

本種は、マルハナバチ類の巣に寄生するとされているが、上記の8頭はともに日向のエゾニュウの花上から採集された。日蔭のものや、ほかの花からは発見できなかった。エゾニュウは複合散形花序を呈するが、本種は下向きに、その1本の茎に静止し、体の後半は、ほかの花との間隙にあった。発見されたもののすべてが、この姿勢をとっていた。

ところで、図鑑に示されている本種の標本写真は、生時の色彩を表現していない。生時の体色は、記憶によれば、黄白色で上翅の中央よりやや下方に淡赤色にみえる部分がある（この部分は斑紋ではなく、先方が暗色の後翅が透けてみえることによるようである）が、死後には全体が黄褐色に変色する。

さて、花上の本種の姿勢と色彩は、黄白色のエゾニュウの花に散見される、一部淡赤色の蒼とまぎらわしいという効果を与えた。

HATCH (1961, *The Beetles of the Pacific Northwest*, part 3, p. 209) によれば、成虫はときに、飛行中のマルハナバチの肢にすがりついているという。当日は、もちろんほかのハチもいたが、マルハナバチの1種も多く訪花していた。採集されたハナバチヤドリキスイは、花上で寄主の訪花を待ちうけていたものと思われる。そうだとすれば、このカムフラージュは、寄主から存在を隠し、花上で乗り移り、そして巣に運ばれる機会をより多くする役に立っているのだろう。